

# 市政専門図書館ニュースレター No.11

## 「日本の地方自治研究に携わって」

プルネンドラ・ジェイン (アデレード大学教授)

Purnendra Jain, University of Adelaide, Australia



日本の地方自治体に関する私の研究に対しては、過去 30 年にわたり多くの方々や関係機関から援助をいただきました。その中でも市政専門図書館は思い出深く、私にとってたいへん大切な所です。1980 年に、日本政治の最前線を研究されていたハーバード大学のマクダガル・テリー教授と初めて会うために訪ねた場所が市政専門図書館でした。

1960 年代から 1970 年代にかけて、急速に都市型社会となった日本で進められた教育・福祉・環境分野の革新的施策と、中央集権から地方分権へと政策基調が転換されつつあった時代の変化を、たくさんのアメリカの研究者達が研究を進めていました。これが、私が日本の地方自治体へ興味を持ち、研究を始めたきっかけでもあります。マクダガル教授と話した際に、その分野の文献収集のためには市政専門図書館を利用する必要があると薦められました。そこで当時の図書館の責任者であった平幡照保さんに助けて頂き、大変感謝しております。その後、私は中央政府と地方政府の政治関係がどのように地方レベルの政策へ影響を及ぼすのかということに興味が増すようになりました。そして、鈴木内閣下で、美濃部東京都知事がどのように東京の公営住宅政策を進めたのか研究を始め、1987 年初頭に豪州のグリフィス大学で博士論文として提出し、博士課程を修了しました。

地方自治の研究で 1984 年から 1985 年にかけて 10 ヶ月間東京に滞在しました。その時は虎ノ門にある自治総合センターに席を置かせてもらったのですが、文献資料収集のために週に一回は市政専門図書館に通いました。当時の図書館の責任者だった猪谷実さんにはたいへん親切にいただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。猪谷さんとは彼が退職したあとも親交を続け、ご家族の方々にも会わせて頂きました。彼の紹介で多くの研究者にもコンタクトを取ることができました。特に土岐寛さん（大東文化大学教授）と廣田全男さん（横浜市立大学教授）は私が東京に行く際には今でも連絡をとり会っています。

猪谷さんの退職後には特に 2 人の図書館のスタッフの方にお世話になっています。彼らは私の急なお願いにもかかわらず、いつも快く資料を用意してくれます。時にはインド料理店に一緒に行くのですが、とても辛いカレーを扇子で額の汗を仰ぎながら食べていたのを覚えています。

後藤・安田記念東京都市研究所の新藤宗幸常務理事にもお礼を申し上げたいと思います。現在の職務に就かれるかなり前になりますが、助言やサポートなどをいただき、大変お世話になりました。『都市問題』のエディターの方々にも、1988年と1992年に私の論文を掲載する際にたいへんお世話になりました。感謝しております。私は今後も研究のために時々東京を訪れますが、どうぞよろしく願いいたします。

私の全ての著作リストは <http://www.adelaide.edu.au/directory/purnendra.jain> に記載してあります。参考にさせていただければ幸いです。

\*\*\*\*\*

プルネンドラ・ジェインは豪州のアデレード大学アジア研究所の日本研究の教授である。過去に豪州の日本研究協会のプレジデントを、現在は豪州アジア研究協会のプレジデントを務めている。日本の近代政治と外交問題に関する著書は全13冊に及ぶ。去年から今年にかけては以下の3冊を出版する。

Jain, Purnendra & Williams, Brad ed. *Japan in Decline: Fact or Fiction?* Folkestone : Global Oriental, 2011

Inoguchi, Takashi & Jain, Purnendra ed. *Japanese Politics Today: From Karaoke to Kabuki Democracy*, New York :Palgrave Macmillan, 2011

Spoehle, John & Jain, Purnendra ed. *The Engaging State: South Australia's Engagement with the Asia-Pacific Region*, Kent Town : Wakefield Press, 2012

地方自治関係の主な著書・論文

「日本の自治体外交」敬分堂、2009年

*Japan's Subnational Governments in International Affairs*, London, New York: Routledge, 2005.

「グラスルーツの国際交流」水上徹男共著、ハーベスト社、1996年

*Local Politics and Policymaking in Japan*, New Delhi, Commonwealth Publishers, 1989.

'*Japan's Subnational Government: Toward Greater Decentralization and Participatory Democracy*', in T. Inoguchi and P. Jain (eds). *Japanese Politics Today*, New York: Palgrave Macmillan, 2011.

"*Local Political Leadership In Japan: A Harbinger of Systemic Change in Japanese Politics?*" *Policy & Society: Journal of Public, Foreign and Global Policy*, August 2004, pp.58-87.

「日本における地方政府の国際的役割」、『都市問題』第83巻第2号、1992年2月、pp. 69-87.

"*The 1991 Tokyo Gubernatorial Election and its Implications for National Politics*", *Japan Forum*, Oxford University Press, Vol. 3 No. 2, September 1991, pp. 1-12.

「地方制度の危機—全インド市長会の組織と活動」、『都市問題』第79巻第8号、1988年8月、pp. 33-44.



## 図書館周辺の風景 自由の鐘（日比谷公園）



「自由の鐘」は、1776年の独立宣言署名の際に鳴らされたことで有名なアメリカの歴史的記念物で、フィラデルフィア市の独立記念館に保存されている。

1952（昭和27）年、アメリカの市民有志がGHQを通じて「自由の鐘」の複製を日本新聞協会に寄贈し、協会はこの鐘を日比谷公園内の三笠山に設置して東京都へ寄贈した。同年10月24日には、当時の安井誠一郎都知事により打ち初めが行われている。しかし、その後鐘が鳴らされた記録はなく、いつの間にか鐘を鳴らす振り子も失われてしまった。

こうした鐘の現状を偶然知った安藤広重浮世絵美術館のオーナー高田明氏が、2010年から仲間と共に「自由の鐘」修復のための募金活動を始め、集まった約1000万円によって修復工事を行った。修復工事により新たに全自動となった「自由の鐘」は、2011年10月1日に打ち初め式が行われ、現在では毎日正午にその音色を響かせている。（井上 学）

<東日本大震災関連資料紹介①>

『東日本大震災クロニクル 2011.3.11-2011.5.11 別刷り報告書』

一橋大学大学院社会学研究科「社会と基盤」研究会・編、2012年3月、A4ヨコ、257p

本書は東日本大震災にまつわる多くの出来事を、正確に理解するためにひとつの束にまとめたものである。3月11日から5月11日までの11,000件以上の出来事が収められている。出来事は、2011年4月から9月にかけて、新聞・雑誌等の記事、政府諸機関・民間団体・学術団体等のウェブサイトから収集された。

記述は縦軸を日時に、横軸を全般、国/政治経済、原発/東電、自衛隊、米軍/米国、基礎的インフラ、生活/生産の基盤、学界/専門家組織、市民社会、原発事故の影響、文化/風俗/メディア、東京圏/計画停電、福島県、宮城県、岩手県、海外動向という16のカテゴリ・発生場所に分けている。

「社会と基盤」研究会の町村敬志は、「はじめに」で出来事を収集することの限界を説明している。第1に、情報を整理・公開する余裕や意欲を持った団体・組織の活動に限られる、第2に、何が震災に関連するかは製作者の暗黙の知識による、第3に、「発表された事柄」は必ずしも「事実」ではない、としている。そして、当初隠されたり不明だった事柄が、その後明らかにされる事態を前にして、本書の記述を今後も吟味していく必要があるとしている。

本書は、「社会と基盤」研究会が創刊した電子雑誌『DISASTER, INFRASTRUCTURE AND SOCIETY: Learning from the 2011 Earthquake in Japan (=『災害・基盤・社会——東日本大震災から考える』)No.1(2011年12月)に掲載するために作成されたものである。同誌は一橋大学機関リポジトリにおいて、PDF版として公開されており、本書に収められた資料のほかに作成手続きの紹介、クロニクル紹介などが英文で掲載されている。(http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/22084)

東日本大震災をめぐる様々な「検証」資料が存在するが、本書は出来事を多面的な視点から時系列に明らかにしており、大切な「記録」資料である。(田村靖広)

<東日本大震災関連資料紹介②>

『女川一中生の句 あの日から』小野智美編、羽鳥書店、2012年7月、文庫、160p

あの日。この暗闇から抜け出すことができないのではないかと思った。家族、友人、自宅、そして故郷の景色を失った。あの日から彼らの生活は大きく変わった。

2011年3月11日に起きた東日本大震災で景色が一変した女川町。女川第一中学校の全校生徒約200人は、心に秘めた想いを五七五の俳句に託した。2011年5月と11月に行われた2回の俳句の授業は、女川第一中学校の全学年で国語の時間に実施された。彼らは避けて通れない現実と向かい合い、悲しみに溢れた過去、解決の道を模索している現在、そして未来への希望を、素直な気持ちで思い思いに詠んだ。

『朝日新聞 宮城版』は、この俳句についての記事を2012年1月13日から4月13日まで随時連載した。新聞記者である編者は、東日本大震災後に女川第一中学校の生徒たちに会い、一人ひとりと対話し、彼らが詠んだ俳句を記事にした。本書には、連載された記事の全文、俳句の授業を指導した教諭の寄稿が収められている。

自分たちの言葉でありのままの気持ちをぶつけた五七五からは、少しずつでも前へ進もうとしている彼らの素直な想いが伝わってくる。女川町の深い闇と夜空の輝きを心に焼き付け、あの日から彼らはたくましく成長していくことだろう。(斎藤夕貴)



### 3.11 東日本大震災による市政専門図書館の被害と復旧

#### ① 被害状況

2011（平成23）年3月11日の東日本大震災により、本館では大きな揺れのため、高さ10段の木製書架から不気味なきしみ音とともに図書・雑誌など約2万冊が落下した。幸いにも人的被害はなかったが、床は足の踏み場もない状況となった。木製書架の倒壊は免れたが、傾斜や棚板の破損やずれ落ちなどの被害があった。本館が所在する市政会館は、関東大震災後の1929（昭和4）年の落成であり、開館当時から書架には倒壊防止補強金具は付けられていたが、この補強金具の一部が書架から外れて落下した。書庫内の照明器具の一部は固定金具が緩み、不安定な状態になった。

#### ② 復旧活動

3月14日から図書館職員は研究員などの協力を得て、余震が続く中で図書の書架への戻し作業を行った。この間は開架コーナーのみの利用としたが、関東大震災関連資料の閲覧要求には可能な限り応じた。3月21日からほぼ平常どおりの閲覧業務が可能となった。床に落下した図書を元の書架に戻し終えると、書架が大きくずれていることが判明した。落下した際に破損した図書・雑誌は、修理・再製本した。2011年12月までに職員の手作業により約30冊、外注による再製本で約150冊の修理を終えたが、一部分が欠落または破損して修復できない資料が約20冊、本体から離れてしまった折込図などが約20点残っている。

#### ③ 今後の対策

木製書架の傾斜やズレの修復と、今後の地震対策については、5月初旬からほぼ2か月を要して、木材による書架の補強や倒壊防止工事を施した。照明器具は全て天井と梁に固定させて、紫外線防止タイプを新設した。

さらに図書落下防止対策として、書架上部2段に図書落下防止シート（キハラ「安全安心シート」）を敷いた。2012年12月7日、三陸沖を震源とする地震で東京は震度4の揺れがあったが、今回の対策が功を奏してか図書の落下や配架の乱れはまったくなかった。（柳原裕彦）

写真1 落下した書籍

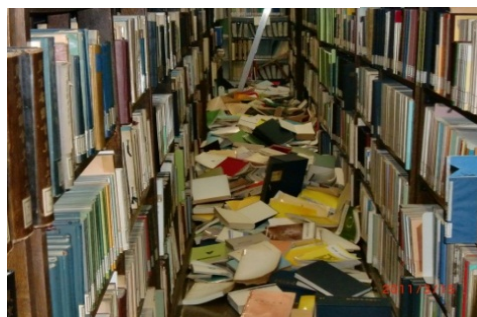


写真2 補強金具の破損



写真3 書架のズレ

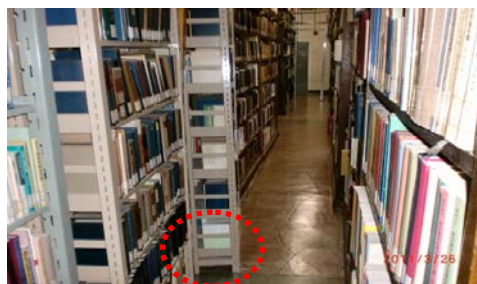


写真4 木材による書架の耐震補強



写真5 図書の落下を防止するシート

